

平成 30 年度 第 1 回鶴岡市スポーツ推進審議会 会議録

- 日 時 平成 30 年 8 月 1 日（水）午後 2 時から 4 時 45 分まで
- 会 場 小真木原総合体育館大会議室
- 審議事項 (1) 鶴岡市スポーツ推進計画（前期）の評価・検証について
(2) 鶴岡市スポーツ推進計画後期改定計画策定に向けた見直し方針について
(3) その他
- 出席委員 渡部正芳会長、飯野準副会長、齋藤隆委員、小田悟志委員、齋藤範夫委員、石川真澄委員、丸山春男委員、佐々木真人委員、村田久忠委員、鎌田博子委員、鈴木金右エ門委員、佐藤しおり委員、千田洋子委員、佐藤武委員
- 欠席委員 佐藤祐司委員
- 市側出席職員 鶴岡市教育委員会 教育長 加藤忍、同学校教育課指導係専門員 佐藤友大、同スポーツ課長 齋藤匠、同スポーツ課長補佐 高橋修也、同スポーツ課スポーツ振興主査 阿部三成、同スポーツ課スポーツ振興専門員 齋藤正人
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人の人数 0 人
- 審議経過 以下のとおり

1. 開会

高橋（事務局） 本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。それでは、ただいまから平成 30 年度第 1 回鶴岡市スポーツ推進審議会を開会いたします。

2. 委嘱状交付

高橋（事務局） はじめに、委嘱状を交付いたします。新たに 3 名の方を委嘱いたします。お名前をお呼びしますのでその場にご起立ください。鶴岡市小学校体育連盟会長小田悟志様、田川地区中学校体育連盟副会長齋藤範夫様、田川地区高等学校体育連盟会長石川真澄様。

加藤教育長 →3 名へ委嘱状交付。

3. あいさつ

高橋（事務局） ここで鶴岡市教育委員会教育長 加藤忍がご挨拶を申し上げます。

加藤教育長 こんにちは。暑い日が続いており災害的な猛暑となっています。今日は本当にお暑い中お集まりいただきありがとうございます。また、日頃よりスポーツ行政に対して、大所、高所より、ご指導・ご助言を頂き感謝申し上げます。ありがとうございます。

最近のスポーツの話題としては、甲子園県大会、鶴岡勢同士の決勝、本当に良い試合というか、どっちに転んでも良いような試合でしたし、鶴岡市出身の選手も数多く出ていて、大変嬉しく思っていました。敗れた鶴岡東もそうですが、これまで感動を与えてくれた各チームの選手・監督の皆さんに心から敬意を表したいと思います。また、羽黒高校からは、ぜひ甲子園でこれまでのベスト 8 の上を目指して頑張ってほしいと思っています。

また、最近のスポーツの話題では、小関選手が 50・100 の平泳ぎで日本記録を樹立したとか、U20 の世界陸上で齋藤真希選手が 8 位入賞したとか、本当に鶴岡・田川の底力を見せてもらっ

ている、日々楽しませてもらっているということで、大変嬉しい限りであります。

さて、今日お集まりいただきましたのは、平成 26 年度に「鶴岡市スポーツ推進計画」を策定しておりますが、10 年計画のちょうど折り返しになってございます。前期 5 年間の取り組みを評価検証しながら、今後 5 年間に向けて施策を見直し、来年 3 月には後期改定計画を策定したいと考えております。

国では、スポーツ基本法に基づき、昨年 3 月に「第 2 期スポーツ基本計画」を策定し、山形県では、「山形県スポーツ推進計画後期改定計画」を本年 6 月に策定しております。市民にとってより良い、より一層スポーツが身近に感じていただけるような計画にして参りたいと思いますので、委員の皆様からは、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

また、スポーツ推進審議会は、年に 1 回、予算の決まる 3 月末に開催しておりますが、今年度は、その策定に向けてこれから何回か集まっていただくようになると思いますので、ご面倒をおかけしますがよろしくお願ひしたいと思ひます。今日はよろしくお願ひします。

高橋（事務局） 続きまして、鶴岡市スポーツ推進審議会の渡部正芳会長にご挨拶をお願いいたします。

渡部会長 皆さん、いまご挨拶にもありましたが、本当に暑いところご苦勞様でございます。今教育長さんのお話に尽くされているわけですが、スポーツの状況はその通りでありまして、まさに 2 年後、2020 年の東京オリンピックももう間近という状況にあります。今回今年度第 1 回ということで、資料が各委員の皆様方に送付されたと思ひます。非常に分厚い資料で驚かれたと思ひます。そんな中で今日は皆様方の意見を、この中から現実のものに向けて作業がいよいよ始まるということでありまして。資料をご覧いただきますと、今日の説明をそうだと思ひますが、日本・県・市町村と縦割りの流れで出来上がって、その流れで説明されると思ひます。ただ、我々が少ししなければならぬと思ひているのは、そういう流れはその通りなのですが、その逆の流れも心の中に留めておいて議論をするべきではないかなと思ひています。鶴岡市も、大合併後新しい鶴岡市としてあるわけですが、前回のこの会議の時にどなたかから、鶴岡市は中央に施設が集中して使いやすくて喜んでいるというお話がありました。しかしその反面、合併前の行政単位の方々はどうだったのか。その辺りまで配慮しながら、やっぱり考えていけないのかなという気がいたします。決して逆の流れで行きましょうという意味ではなくて、それを踏まえて現実の鶴岡市の状況をしっかり見つめて、その中からあるべき姿を導きだしていくということだと思ひますので、ひとつ皆様方よろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。以上です。

4. 自己紹介

高橋（事務局） ここで委員の出欠についてご報告申し上げます。本日は、名簿の 3 番、鶴岡信用金庫理事長の佐藤委員から欠席の連絡をいただいております。それから名簿の 4 番、小体連会長の小田委員から遅参の連絡をいただいております。以上、ご報告申し上げます。

この度 3 名の方が新たに委員とされましたし、今年度第 1 回目の開催でもありますので、ここで委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと存じます。名簿順をお願いいたします。

→委員及び事務局自己紹介。

高橋（事務局） 本日は、委員 15 名中 14 名の出席でございます。過半数の出席を得ております

ので、鶴岡市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定により本審議会は成立していることをご報告申し上げます。

5. 諮問

高橋（事務局） それでは、次第の5「諮問（しもん）」でございます。加藤教育長から渡部会長へ、「鶴岡市スポーツ推進計画後期改定計画の策定について」の諮問書をお渡しいたします。渡部会長はご起立くださいますようお願いいたします。

加藤教育長 →渡部会長へ諮問書を読み上げて手渡し。

6. 報告と説明

高橋（事務局） 続いて「報告と説明」でございます。事務局からご説明申し上げます。

齋藤（事務局） 事務局から配付資料の確認と説明・報告。

1. スポーツ基本法について
2. 鶴岡市スポーツ推進審議会条例について
3. 第2期スポーツ基本計画について
4. 山形県スポーツ推進計画＜後期改定計画＞について
5. 鶴岡市スポーツ推進計画について
6. 運動・スポーツに関するアンケート調査【鶴岡市調査】結果報告書について
7. 鶴岡市体育施設利用状況（平成20～29年度）について
8. 鶴岡市内の主な体育施設・類似施設について
9. 平成30年度 鶴岡市中学校 部活動等に関するガイドラインについて
10. 自治体戦略2040 構想研究会第一次・第二次報告の概要について

7. 協議

高橋（事務局） それでは「協議」に入らせていただきます。議長につきましては、鶴岡市スポーツ推進審議会条例第6条第1項に、会長が議長となる旨規定されておりますので、渡部会長にお願いいたします。

渡部会長 それでは膨大な資料の説明をお聞きしてお疲れのことと思いますが、引き続き協議に入らせていただきますのでよろしく申し上げます。協議(1)(2)(3)が次第でございます。(1) 鶴岡市スポーツ推進計画（前期）の評価・検証について (2) 鶴岡市スポーツ推進計画後期改定計画策定に向けた見直し方針について、と分離して記載してございますが、いずれにしても密接な関連のある事項でございますので、両方(1)(2)併せて事務局の説明を求めたいと思います。事務局よろしく申し上げます。

齋藤（事務局） (1)(2)について事務局説明。

渡部会長 事務局から(2)見直し方針について話がありました。委員の皆様方に全面的に意見を求めたいということでもあります。これまでの施策の評価、現状、課題について何か質問がございましたらお願いします。後でお気づきの点がありましたら質問をお受けしたいと思いますので、ご意見も含めてこれから意見交換に移りたいと思います。これまでの施策の検証、課題等の枠組みにとらわれなくて、委員の皆様方から自由な意見をいただきたいと思います。市の総合計画と並行作業ということですので、総合計画を左右するような意見が出てもよろしいかと思っております。いかがでしょうか。

村田久忠委員 アンケート調査の結果報告のところで、鶴岡市のデータと全国のデータ、県のデータとの比較がありますが、全国と県の調査方法と同じような方法だったかどうか分かれば。

齋藤（事務局） まず、国の調査は平成 29 年のスポーツ庁の調査ですが、調査地域としては全国、調査対象は 18 歳から 79 歳の男女となっております。対象パネルというものがあって、約 131 万人だそうです。調査方法として、上記加盟の登録モニターを対象としたウェブアンケート踏査、回収数が 2 万件で回収割付が調査対象の人口構成比に準拠した割付ということのようです。ちなみに、ウェブアンケート調査は無作為抽出で、対象者にメールで協力依頼を行い、目標回収数に達するまで回答をウェブで受け付けているそうです。県につきましては、対象地域が山形県全域で、調査対象が県内在住の 18 歳以上の男女です。標本数が 2,500 で、抽出方法は層化二段階無作為抽出法ということです。調査方法は郵送によるアンケート調査で、調査実施機関は株式会社東北情報センターです。回収数は、1,436 件で回収率は 57.2%とのことであります。

村田久忠委員 なぜ聞いたかという、鶴岡市のこれまでの総合計画を作ったりするときに、アンケート調査を 4・5 回くらいはしていると思いますけども、今までの調査の仕方というのは今回のようにお願いして調査している時と、無作為でやったこともあります。すると全然回収率も違うし、中身も違ってくるので、国が目標数値を決めて向かっているというのは良いと思うけども、比較した場合に同じようなやり方ではないということを入れて考えてもらえればということでした。

渡部会長 他にありますか。

佐々木真人委員 次第の 15 ページに地域性を活かしたスポーツの推進ということでスキーが載っております。鶴岡市スポーツ推進計画の 10 ページによると本市には 4 つのスキー場があるとのことですが、4 つということは八森も入っているのでしょうか。教育委員会の所轄ではないものだから体育施設としてスキー場関係は全然載ってないです。今、体育協会の加盟団体からスキー連盟が脱会しており、教育委員会の所轄でもないということで取扱いが違っているのではないかということについて聞きたいです。

もう一つは 17 ページの「知育・徳育・体育」の土台となる「食育」の推進ということで、大変良いなと感じております。総合計画の 5 年前の見直しのあたりで、「知育」「体育」は市の総合計画にあるのですけれども、「食育」というのはなくてそれを質問したことがありました。学校給食の発祥の地でもありますし、ユネスコの食文化創造都市にも登録されるなど「食」に関して頑張っているのにどうして「食育」というものが入っていないのかなと思っていました。スポーツの方では「知育・徳育・体育」の土台として「食育」と載っておりますけれども、その中の欠食率というのは朝食なのか学校給食なのか何の欠食なのでしょう。

阿部（事務局） 八森山のスキー場の件で、今の運営形態は八森山レクリエーション広場の管理については教育委員会が行っていますけれども、ティーバーリフトという機器が残っておりまして、そちらを無償貸付という形で市から三瀬の自治体に貸し付けています。そこに生じた電気料相当額を毎年三瀬の自治体から市に納めていただいているという仕組みになっています。スキー場に関しては三瀬自治会が自主的に運営しているという形です。スキー場自体は使えるという状況の中で、運営形態が条例からも外れておりますので市からは離していますが、

スキー場自体は運営されているという状況です。

齋藤（事務局） 欠食率につきましては朝食の欠食率です。

渡部会長 他にございませんか。

齋藤隆委員 17 ページにスポーツ少年団の登録対象年齢が 3 歳から引き下げられたとありますが、どういう狙いがあるのかということと、18 ページに中学校では「1 学校 1 取組み」とありますが、小学校では実施していないのかという 2 点についてお聞きしたいです。

村田久忠委員 1 点目に関しては、小さいころからスポーツ・遊びに親しむという観点であくまでも今の体育会系のような競技に親しむというところではないので、日本スポーツ協会で普及を図っているアクティブチャイルドプログラムでも遊び・体力づくりという観点で団員を増やそうというのが大きな狙いでやっています。

齋藤隆委員 鶴岡でも登録がありますか。

村田久忠委員 団員登録はないのではないかと話していますが、全国でもまだそんなに多くはないです。上の子が入って下の子がついてくるという現状はあるのですが、そういう子たちも含めて子どもたちの遊ぶ機会を作っていこうというのが趣旨です。

佐藤（事務局） 2 点目に関して中学校だけではなく小学校も取り組んでおりまして、県の体力向上に関わる取組みということで行っております。

渡部会長 他にございませんか。

村田久忠委員 先程の少年団の関わりで話をしますが、21 ページの最後のところでスポ少や部活動等以外のスポーツ活動選択肢の実態把握ということが書いてあります。ここ数年、少年団から離れてクラブ化という流れがあり、小学校だけでなく中学校の部活動でも保護者が主体となったクラブ活動というよくわからないものがあるけれども、代表者が父兄になっていて、事故があったときに誰が責任を取るのかという話になります。鶴岡市としてはこういう指針を出したわけですが、先生方の問題だけでなく、子どもの健康という視点も当然含まれるので、部活動は部活動でやって保護者のクラブ活動はクラブ活動としてやってという話ではないと私は思っています。全体的な週の活動の中での運動する時間という話だと思うので、選択肢を増やすというのは当然必要なことだとは思いますが、現状を調査する必要があると思います。

渡部会長 事務局から何かコメントありますか。極端に言うともっと実態を反映する調査方法がないかというところだと思いますが。

齋藤（事務局） 前回調査と大きく調査方法を変えてしまうとデータにかなりの差が出てくるといことも想像されたので、前回の調査方法とほぼ同様の形をとったわけではありますけれども、より実態に近い調査をするにはどこかの時点で覚悟をして調査方法を変えて、実態に極力近い調査をするということは必要になってくると思います。

子どもを取り巻く環境の調査はスポーツ課としては特にやっておらず、スポーツ少年団を通して情報が入ってくるという状況ですので、その辺も一步踏み込んだ取組みができればと考えています。

渡部会長 他にございませんか。

丸山春男委員 意見と質問をさせていただきます。まず 1 点目ですが、基本方針 1 から 4 まであ

るとすれば、1の部門で1回切って協議すればリアル感があって色々意見が出たのかなと思うので、これから説明が長いような時はそうしていただきたいです。

それから、説明の中で具体的に出てきておりましたけれども、15ページの中に「てくてく健康里山歩き」があって、鶴岡ではこれまで多くの人に参加した実績はあるのですけれども、データが示すように、この5年間で参加人口がたまたま少なくなっているのではなく直線的に少なくなっている状況ですので、具体的に検討していく必要があるかと思います。

また、チャレンジデーですけれども、これから参加人口が増える可能性は低いのではないかと思います。スポーツをするきっかけづくりと唱っておりますけれども、その検証も含めてもう少し突っ込んだ検討をした上で実施するとうまいかと思えます。

渡部会長 事務局には検討して頂けたらと思えます。

小田悟志委員 先程、村田委員からも話がありましたけれども、スポーツ少年団の加入については、実は小学校体育連盟でも29年度に加入しているクラブも含めた調査をしております。今手元に資料が無いのですけれども、参考になるかと思えますので資料を提供したいと思えます。

渡部会長 ありがとうございます。私はよく中体連の統計資料を引き合いに出すことがあります。人口動態は確かに統計数字としては悲惨な将来を示しておりますけれども、ところが例えば中体連の統計ですと、山形地区と鶴岡地区の中学生の総数を比べると鶴岡地区は山形地区の半分であります。中体連の種目の優勝回数は近年山形地区と全く同じです。児童数が減るからどうするかということもありますけれども、その中でも成績はあげています。これはもう少し積極的に評価するべきだと思います。他にございませんか。

鎌田博子委員 鶴岡市は大変自然が豊かな市ですけれども、最近自然に親しむ子どもたちが少なくなっていることも危惧されることの一つだと思います。ですから、自分の故郷で体力づくり・仲間づくりをして、将来自分の子どももそこで楽しませたいという夢を持てるようなレクリエーション施設を是非検討していただきたいと思えます。早急には難しいかもしれませんが、豊かな自然を生かすという意味でも鶴岡市の子どものみならず、県内外の子どもたちを鶴岡に集めてもらえるような魅力ある施設をお願いしたいです。

もう一つは、16ページの今後の課題の中に障害者スポーツの実態把握と振興策の充実を図る必要があるということが書かれてありますけれども、私も賛成です。鶴岡市は障害者に優しい市ということで施策を講じており、ましてや2020年のオリンピック・パラリンピックでホストタウンとしてボッチャチームを誘致していくということもあるわけですし、もう少し障害者と共生できるようなスポーツの活動の場を考えていかないといけないのではと思えます。それから、これからホストタウンとして色々な施策があると思えますが、そこに健常者も参加して一緒に学ぶことも必要ですけども、子どもから高齢者までもっと幅広く障害者の方々もお呼びし、交流をしていただいて2020年を迎えることができれば素晴らしいのではないかと思います。それを契機に、鶴岡市が障害者に優しい都市であるということ在全国に発信できるような施策もこれからぜひ考えていただきたいと思えます。また、養護学校の子どもたちにももっと日頃からスポーツの場を提供できるような環境を考えていただきたいと思えます。高等養護学校では体育の時間はあるのですけれども、先生方も忙しいし種目に専門性もないということで、スポーツクラブに指導者を派遣してほしいという声が大変多くなってきています。そうい

う時に私たちはスポーツ推進委員の方々にもお願いしているのですけれども、そういうところに色々な種目を提供して、子どもたちのスポーツ環境を何とか充実させたいと思っているところです。ですから鶴岡が全国に先駆けて楽しい環境づくりをする市となってほしいと思います。

渡部会長 ありがとうございます。個人的には、わざわざオリンピックとパラリンピックを区別して使い分けているということがどうなのかなとは思いますが。ボッチャは私も面白い競技だと興味は示しています。その辺に関して、トイレの問題など前回も少し話が出ましたけれども、佐藤武委員何かありませんか。特になければ、佐藤しおり委員はどうですか。

佐藤しおり委員 30代・40代女性のスポーツへの認識と参加の実態が低いということでしたけれども、その世代はまさに子育て世代で現実的に時間が無いというのもあると思いますが、その世代のスポーツ離れが将来的に子どもの運動に親しめないとか運動への苦手意識につながるのではないかと思いました。今は子育て支援というと屋内施設をイメージしがちで、そこは充実しているのですが、外で自由にボールを蹴ったり、走り回ったり、危ないからダメと言われて水遊びをしたりというような遊びの場があったらいいなと思います。赤川の桜ハウスや野球場があるところを国の補助を受けて水辺に親しむ環境のまちづくりをするという事業では、憩いの場や運動施設を作るというような構想もあります。スポーツ事業単独で予算を確保するのは難しいと思うので、そこに子どもが自由に使える施設を便乗して作ってもらって、一緒に考えていけるような全体的なまちづくりができればいいなと思っています。たとえば、五小は体育館が小さく運動施設が少ないということで、新しい学校ができればいいなという運動もあります。あの辺りには児童館もないもので、あの辺りを中心に川遊び児童館ですとか、学校施設や周辺施設を使ったまちづくりができればいいなと思っています。全体的にはスポーツだけでなく、食・スポーツ・健康・川遊びのまちというようなことで、20年後に人口が40%減るといふことのない魅力的なまちづくりができればいいと思います。

渡部会長 ありがとうございます。先ほど食育の話も出ましたが、関連して千田委員どうですか。

千田洋子委員 ちょっと私は部門が違いますが、資料の内容は当然だと思うのですけれども、なかなか文章と実際の個人の理解の仕方には隔たりもあると思います。家は三学区で遠泳があるので、遠泳がない学区の保護者からはうらやましがる声も聞こえてくるので、父兄の声なども取り入れていけば少しずつ進歩するのではないかと思います。PRのやり方も広報に少し載せるだけでなく、スキーをしているところを載せて、こういうスキー場がありますよというようなお知らせに力を入れてPRした方がみんなに浸透するのではないかなと思います。チャレンジデーもその一つで、ただ負ける試合を鶴岡市が予算を使って実施して意味があるのだろうかと思っても、それを誰にぶつけていいのかわからなくて疑問に思うことがたくさんあります。もう少し下の意見を吸い上げる方法を考えてもらったらいいのではないかと思います。

渡部会長 ありがとうございます。鈴木委員どうですか。

鈴木金右エ門委員 スポーツには色々な力があって、波及効果があると言われている中で、32ページの中にもある全国規模の大会とかを誘致していて、サッカーのワールドカップなどではよく経済波及効果何百億などと数字が出される場合がありますけれども、本市でも大会を誘致したことによって地域にこのぐらい波及効果がありましたというような算定ができないもの

かなと思います。色々な手法があるのでしょうかけども、スポーツだけでなく産業・観光にも影響してくる指標になればもっと盛り上がるのかなとも思っています。

渡部会長 ありがとうございます。

飯野準治委員 私が一番心配しているのはスポーツと健康についての考え方です。最近ではスポーツと人生の兼ね合いが変わってきているような気がします。そこを改めて考えなければならぬのではないかと思います。色々なプランが出ていますけれども、一番心配なのは指導員やボランティアがいなくなっていってしまっているということで、それはなぜかという、指導員という立場の人が誇りを持ってみなさんから見てもらえるような体制になっていないからです。人間というのは誇りを持って常に物事にあたるといような方法を考えなければならぬのではないかと思います。指導員やスポーツを実施するための人材をもう少し誇りを持てるような施策をこれから考えていただきたいです。

何事も土台は健康です。私はよく元気だと言われますけれども、40代・50代の時にスキーに行くなど、スポーツをやっていたというようなことが今につながっているのではないかなと実感しています。やはり健康というのが人生においてどれだけ大事かということ子どもたちに教えていく必要があると考えています。

渡部会長 ありがとうございます。中体連・高体連の立場からまず齋藤先生どうですか。

齋藤範夫委員 少子化にともなって部員不足になっていることは事実です。各学校80パーセントくらいはなんとか部活動に入って運動に親しんでいるところではあるのですが、今回のように異常気象等で部活ができなくなるというようなこともありますので、ある程度快適な環境でやることができれば、短い時間でも集中できますし、技能も上がっていくのではないかなと思います。色々な課題が山積みですが、少しずつ解決していったら少しでも運動に親しむ子どもたちをふやしたいなと考えております。

渡部会長 ありがとうございます。高校でも部活の指導者の問題で大変ご苦労されていると思いますけれども、石川先生どうですか。

石川真澄委員 まず私は市の人間ではなかったもので、鶴岡市の体育事業がこんなにたくさんあるというのは素晴らしいなと思って見てきたのですけれども、うちの学校の事例でいうと山添校が1クラス規模の分校になりまして、全校で57名しかいないという中で、運動部そのものがなくなってしまっているという実態があります。競技スポーツをする子どもたちがなくなったということと、少子化に伴って鶴岡北高校では今年の1年生から3クラスになり、生徒の部活動の登録状況などから水泳部がなくなりました。かなり活躍した子が入っていた部活であってもそうになってしまうということで、水泳そのものは地区水連にお願いして練習は続けておりますが、どの学校もそのような形になりつつあります。こうした協会等と連携した活動が今後増えていくのではないかと思います。登録している割合は運動部が多いのは確かですが、先生の数も生徒の数も少なくなり、競技が増えてくると分散してしまっただけで一つの部活動が成り立たなくなっていくということもあるものですから、そういったところをどうしていくかということが学校で課題になっています。長期的な視点になると思いますが、協会と少年団から続く流れの中で、小中校一本にした指導体制というものがもう少し活発につくることができないかなと思います。

渡部会長 ありがとうございます。時間があまりないのですけれども、これだけは話をしたいということがあればお願いします。

小田悟志委員 昨日水泳大会がありました。今までは水泳大会を行うにあたって天候が悪かったり寒かったりしたらどうしようということが我々の関心の中心であったけども、昨日に関しては暑さをやり過ごすかで、スポーツ課さんからもジャグをたくさんお借りして実施できたのですけれども、後で若干名具合が悪くなった子がいたということは公式ではありませんが聞いています。教室はもちろんですが体育館、プールなど学校は非常に暑いです。実際今年はプールの水温が35℃で全く涼めなくて帰った子もいました。スポーツに親しむ箱の環境と合わせて健康に取り組めるような環境が無いと、夏にスポーツに親しみましようというのがかえって危険だということにもなりかねないので、そのようなところもご相談させていただきたいし、教えていただければと思います。

渡部会長 ありがとうございます。時間もずいぶん経過しておりますのでこの辺でそろそろ締めたいと思いますけれども、他に何かこれだけは話をしたいという方はおられますか。(なし) それでは、特にないようですので、議事については締めたいと思います。その他ということで事務局何かございますか。(なし) それでは、このへんで議事を終わりたいと思います。ありがとうございました。

8. その他

高橋（事務局） 渡部会長、議事進行ありがとうございました。「その他」でございますが、特に無いようであれば、事務局から2点ご連絡いたします。まず1点目が、一枚紙で皆さんにお渡ししている「ご意見ご提言用紙」をお配りさせていただいておりますが、ここだけでは発言しきれなかったこと等を簡単な箇条書きでもいいと思います。この用紙でご意見やご提言があった場合は、本日ご審議いただいた内容と合わせて、次回審議会の提案資料に反映させていただきたいと考えております。提出はファクスで構いません。8月10日（金）までにお送りいただければと思います。

2点目は、次回審議会の開催予定でございます。次回の審議会は、10月中旬頃の開催と考えております。現在のところ開催日程は未調整でございます。会議開催の1か月ほど前にはご案内の通知をお出しさせていただきますので、皆様お忙しいとは存じますがよろしくお願いたします。

9. 閉会

高橋（事務局） その他何か質問等はございますか。他に無いようであればこれをもちまして、平成30年度第1回鶴岡市スポーツ推進審議会を閉会いたします。ありがとうございました。